

時代	西暦	元号	愛知県のできごと	
			尾張	三河
旧石器	紀元前 5000		大口町中原・春日井市梅ヶ坪遺跡など	北設楽郡茶臼山・新城市萩平遺跡など
			東浦町入海・名古屋市大曲輪・同市銚ノ木・一宮市馬見塚・岩倉市大地遺跡など	豊田市酒呑ジュリンナ・豊橋市嵩山洞窟・北設楽郡鞍船・田原町吉胡・渥美町伊川津遺跡など
縄文	300		名古屋市西志賀・西春日井郡朝日貝殻山・名古屋市見晴台遺跡など	宝飯郡水神平・豊橋市瓜郷・小坂井町篠束遺跡など
弥生	紀元 300		東之宮（犬山）・出川大塚（春日井）・青塚（犬山）・二子山（春日井）・断夫山（名古屋）古墳など	甲山（岡崎）・塚越（安城）・正法寺（吉良）・二子（安城）・船山（豊川）古墳など
古墳	500	景行期	○このころ、猿投・尾北窯が始まる。須恵器・陶質はにわなどが焼かれる	
			○このころ、尾張氏栄える 倭建命，尾張国造の女の美夜受比売をめとる	
飛鳥	645	安閑期 大化1	間敷屯倉・入鹿屯倉が設けられる 大化の改新 ○このころ、国府を稲沢市国府宮付近に置く ○このころ、東海道ぞいに、馬津（津島）・新溝（名古屋古渡？）・岡村（豊明？）に駅を置く	穂国造と三河国造の支配地域を合わせて三河国とする。国府は豊川市白鳥町に置く（推定） 鳥捕（岡崎）・山綱（岡崎）・渡津（小坂井）に駅を置く 三河に碧海・額田・賀茂・幡豆・宝飫・八名・渥美・設楽の郡を置く。尾張に中島・海部・葉栗・丹羽・春日部・山田・愛智・智多の郡を置く
		672	じんしん 主申の乱。尾張国守，小子部連鉤，2万の兵を率い，大海人皇子に味方する	
奈良	703	大宝3	○このころ、地方豪族による寺院建立がさかん 長福寺址（一宮～岩倉）・元興寺址（名古屋）・勝川廃寺（春日井）・甚目寺（甚目寺）など	北野廃寺（岡崎）・松韻寺址一寺領廃寺（安城）・舞木廃寺（豊田）など
		741	天平13	○このころ尾張国分寺・尼寺が稲沢に建立される
平安	750	天平 勝宝2	東大寺造営のために布をおくる	東大寺造営のために紙をおくる
		780	宝亀6	奥州討伐のため，尾張・三河など5か国，
	792	延暦11	健児の制。尾張健児50人	三河健児30人
	799	18	尾張のほか10か国の役夫に皇居を造営させる	コンロン人（インド人）が漂着し木綿を伝える
	894	寛平6	○このころ、東郷（愛知郡）～三好（西加茂郡）方面で古窯がさかんになる 小野道風，春日部郡（春日井）に生まれる	

鎌倉	940	てんぎょう 天慶3	たいらのまさかど 平将門の乱により尾張・三河、 きゆうえん 救援のため東国へ出兵を命じられる	
	988	えいえん 永延2	おわりのくにぐんじひやくせいらいげぶみ 尾張国郡司百姓等解文。翌年、 もとなが 元命解任される	
	992	しょうりやく 正暦3	にわよしみねおゆみのしょう ○このころ、丹羽郡司良峯氏、小弓庄(犬 ふじわらのみちなが 山あたり)を藤原道長に寄進する	○このころ、みかわのかみやすすけしきへき 三河守藤原保相、志貴庄(碧 かい 海郡)を藤原頼通に寄進する
	1083	えいほ 永保3		とものすけかねだいなごんともよしお 伴資兼(大納言伴善男の子孫)、 しゅうとひょう 舅の兵藤太夫正経とともに みなもとのよしえろうとう 源義家の郎等となり、 ご 後三年の役で活躍する
	1114	えいきゅう 永久2	○このころ、尾張・三河に海賊・盗賊が横行し、伊勢神宮へ運ぶ上納物などを奪う	○このころ、あつみ 渥美古窯が始まる
	1156	ほうげん 保元1	ほうげんあつたたいくうじすのりよしもと 保元の乱。熱田大宮司藤原季範(源義朝の 舅)の一族郎等、義朝に従う	伴氏・兵藤氏、源義朝に従う
	1159	へいじ 平治1	へいじ 平治の乱。熱田大宮司の一族郎等、義朝に従う	ごうぞくしげはらひょうえ 豪族、重原兵衛父子、義朝に従う
	1160	2	ちたのまおさだのしょうじたむね 義朝、知多野間で長田庄司忠致に殺される	
	1181	ようわ 養和1	ゆきいえひきすのまた 源行家、尾張・三河の兵を率いて墨俣川で へいし 平氏と戦い敗れる(在庁役人の多くは平氏 に味方)	
	1185	ぶんじ 文治1	おおやなかさんやすすけこくふ 大屋中三安資(国府役人で、墨俣川の戦い のとき、源氏に味方)、 しゅご 守護に任じられる	あだちもりながよしもとごけにん 安達盛長(源頼朝の御家人)、守護となる
	1196	けんきゅう 建久7	じもくにおうもん 甚目寺仁王門ができる	東大寺再建のための瓦が、 かわら 建久年間に伊良湖で焼かれる
	1221	じょうきゅう 承久3	じょうきゅう 承久の乱。木曾川をはさんで京方と鎌倉 方が戦う 尾張の武士の多くは、京方に味方する	あしかがよしうじ 源(足利)義氏、三河守護となる。以後足 利氏の勢力が三河に根をおろしていく
	1228	あんてい 安貞2	そうせいとうじゆつ 宋で製陶術を学んで帰った加藤藤正(藤四 郎)が瀬戸で窯を開いたと伝えられる	しんらん 親鸞、三河を巡行し、 じゆんぎょうみょうげん 妙源寺(岡崎)で 教えをひろめたと伝えられる
1232	じょうえい 貞永1	○このころ各地に定期市がたつ。海東上 庄市(1222)・萱津東市(1242、海部)・下 津五日市(1314、一宮)など		
1263	こうちよう 弘長3	むじゆうこくしちようぼ 無住国師が長母寺(名古屋)へはいる		
1283	こうあん 弘安6	いっぺんかやづ 一遍が甚目寺・萱津駅で教えをひろめる 幕府、円覚寺に富田庄(名古屋)を寄進す る	このころ、こんねんみだらきら 金蓮寺弥陀堂(吉良)・東観音 寺金銅馬頭観音(豊橋)・滝山寺山門(岡 崎)などができる	
1331	げんこう 元弘1	○このころ、密蔵院(1328、春日井)・曼陀 羅寺(1329、江南)・定光寺(1336、瀬戸)・ みようこう 妙興寺(1348、一宮)などができる	げんこうあすけしげのり 元弘の変。足助重範(足助の豪族)、 ごだいご 後醍醐天皇に味方して戦う。敗れて京都六条河原 で斬首	
1335	けんむ 建武2		ざんしゅ 矢作川の戦い。吉良氏・仁木氏・細川氏、 やはぎ 足利氏に味方して朝廷方の新田義貞軍と 戦う。翌年、吉良庄・八幡・木野原で新田 勢と戦う	
1338	りやくおう 暦応1	きたばたけあきいえ 西上する北畠顕家の軍、下津・黒田で足利 軍を破る		
南北朝				

室 町	1345	貞和1	足利尊氏 ^{たかうじ} 、国ごとに安国寺を建てる（尾張は不明）	安国寺（額田郡坂崎 ^{ぬかた} ）が創建される
	1349	5		足利直義（尊氏の弟）と高師直（尊氏の執事 ^{しつ} ）が対立したため、三河の武士も両陣営に分かれて争う
	1400	応永7	○このころ、斯波義重 ^{しばよししげ} 、守護となる。斯波氏の被官織田常松 ^{ひかんおだじょうまつ} が守護代に任じられる	
	1455	康正1	以後織田氏が尾張に根をひろめる	西郷氏が岡崎城をつくる
	1467	応仁1	応仁の乱。尾張・三河の武士も2つに分かれて相争うようになる。織田家、伊勢守（守護代系）と大和守（又代・在地系）とに分かれて争う	このころ（1466～1470）、蓮如 ^{れんにょ} が三河に教えをひろめる
	1475	文明1		大樹寺（岡崎）が創建される
	1479	文明11	両織田家、和議が成立する。尾張を二分し、分割支配が始まる	
	1505	永正2		牧野古白 ^{こはく} 、今橋城（豊橋）をつくる
	1510	7		三河木綿 ^{みかわみわた} 、奈良の市へ出る。このころから、三河木綿の名が全国にひろまる
	1522	大永2	駿河の今川氏親 ^{いまがわうじちか} 、那古野に城をつくる	
	1524	4		松平清康（家康の祖父）岡崎城へはいる。
	1528	享禄1	○このころ、大和守家老職 ^{やまとのかみかろう} 、織田信秀（信長の父）の勢力がのびる	以後、鈴木氏（足助）・牧野氏（豊橋）・戸田氏（田原）などをくだし、東三河を手中におさめる
	1529	2	品野（瀬戸）・岩崎城（日進町）、松平清康に攻略される	
	1534	天文3	織田信長、那古野城（名古屋城の地内）に生まれる	刈谷城ができる（1533）
	1535	4	○このころ、織田氏と松平氏、激しく戦う	清康、守山に出陣中、近臣に殺される
	1536	5	豊臣秀吉、愛知郡中村（名古屋）に生まれる	
	1537	6	織田信康、犬山城をつくる	安祥城 ^{あんしやう} 、信秀に攻略される（1540）
	1542	11		信秀、今川義元と小豆坂（岡崎）で戦う
1545	14		徳川家康（竹千代）、岡崎城に生まれる	
1547	16		今川氏、今橋城を攻略する。吉田城と改称する	
1549	18	信長、犬山城主織田信清を攻める	竹千代、人質として今川氏のもとへ送られる途中、田原で戸田氏に捕らえられ信秀のもとに送られる	
1555	弘治1	信長、清洲織田の一党を破り、清洲城へはいる	今川勢、安祥城を攻めて織田信広（信長の兄）を捕らえ、竹千代と交換する	
1557	3		今川・松平勢、尾張を攻める	
1559	永禄2	信長、岩倉城を攻略し尾張をほぼ勢力下に置く	今川義元、今川領の三河各地で検地を行う	
1560	3	桶狭間の戦い。信長、今川義元を桶狭間に破る	今川氏、退き、家康、岡崎城へはいる	
1563	6	信長、家康と同盟を結ぶ（以後、信長は西へ、家康は東へ進むこととなる）	一向宗門徒の武士・農民ら一揆をおこす（三河一向一揆）	
			信長、小牧山に移る。信長の長女徳姫、家康の長男信康に嫁ぐ	

安土 桃山	1567	10	信長、美濃稲葉山城（岐阜）を攻略し、本居をここに移す	家康、遠江へ進出する。信康に岡崎をあげ、浜松へ移る
	1570	元亀1	長島一向一揆おこる。信長、3回にわたって	
	1572	3	攻撃を加え、門徒2万人を焼き殺す。1574年平定	家康、三方ヶ原の戦いで、武田信玄に敗れる
	1575	天正3	長篠の戦い。織田・徳川連合軍（3万8000、うち鉄砲隊3000）、武田勝頼を破る	
	1582	10	本能寺の変。信長、家臣の明智光秀に殺される 秀吉、光秀を山崎（京都）に破る。清洲会議	
	1583	11	秀吉、織田信孝（信長の子）を野間で切腹させる	家康、武田氏をほろぼし、領土を三河・遠江・駿河・甲斐・信濃にひろめる
	1584	12	小牧・長久手の戦い。秀吉と家康が争う 秀吉、大阪を出て犬山城へはいり、さらに楽田（犬山）に軍を進める。同年、和議成立	織田信雄（信長の子）・家康、小牧山に出陣する
	1586	14	木曾川大洪水。ほぼ現在の流路となる。秀吉、木曾川堤防を修復し、尾張・美濃国境を定める	家康、大阪城で秀吉に謁する
	1589	17		家康、三河各地で検地を行う
	1590	18	秀吉、家康を関東へ移す	田中吉政が岡崎城主に、池田輝政が吉田城主になる
	1591	19	尾張太閤検地行われる（1592年まで）	三河太閤検地（1590～1594）
	1594	文禄3	秀吉、清洲の町を整理し、来住の農民を帰郷させる	水野忠重、刈谷城主になる
	1598	慶長3	秀吉、死ぬ	
	1600	5	関ヶ原の戦い。木曾川合戦（関ヶ原前哨戦）	
1604	9	東海道に松並木を植える（御油松並木は天然記念物）	矢作新川が開かれる	
1605	10			
1607	12	徳川義直、清洲城主となる		
1608	13	伊奈忠次、検地を始める（1610年まで） 木曾川左岸、犬山から河口までの築堤工事が始まる。翌年完成。－お囲い堤という		
1609	14	伊奈忠次、葉栗郡大野に杵を計画する		
1610	15	名古屋城の普請始まる ○このころより、清洲の武士・町人、名古屋へ移る。－清洲越しという。1611年、堀川ができる		
1612	17	○このころ、尾張藩、瀬戸の陶業を保護する 美濃中島郡大須（羽島市）の真福寺を名古屋城下へ移す。－名古屋大須観音の始まり 名古屋町割実施		
1614	19	大阪冬の陣。義直、大阪へ出陣する		
1615	元和1	木曾山、尾張藩領となる（1616 七里の渡し始まる）		
1618	4	成瀬正成、義直の付家老として犬山城へはいる		
江戸				

1621	7	枇把島青果市場が開かれる
1624	寛永1	立田輪中を計画する
1625	2	熱田常夜燈ができる。領内農民の他国移住禁止
1628	5	大野杵を上流の宮田へ移す。宮田用水の始まり
1631	8	○このころより、キリシタンの取り締まりがきびしくなる（この年検挙57人。以後、一宮・扶桑・犬山などで多数検挙、処刑される）
1632	9	入鹿池の築堤工事始まる。翌年完成する
1635	12	○このころ熱田魚市場が開かれる 有松しぼりの基礎が固まる
1640	9	尾張藩、農民取締条目を出す。欠落取締令（1642）
1644	正保1	
1645	2	尾張藩、概高制を採用する（領内の石高を過去10年の平均年貢の4分の10に改める—4つならし）
1647	4	尾張藩、熱田新田を開発する。3800石
1650	慶安3	木津用水完成する。1664年には新木津用水完成
1652	承応1	熱田船番所ができる
1663	寛文3	○このころ矢合（稲沢）の苗木づくり始まる 茶屋中島家、干拓新田を開発する—茶屋新田（名古屋）
1666	6	尾張藩、財政難となり、藩札を発行する
1669	9	この春、名古屋城下町の人口5万5849人、家数5821戸となる（1671年の士分を除く尾張の人口37万5918人）
1674	延宝2	
1677	5	
1680	8	尾張藩、山内知真を登用し藩政改革を行う
1681	天和1	
1684	貞享1	芭蕉七部集「冬の日」、名古屋で興行される
1685	2	○このころ、犬山焼始まる ○このころ、名古屋三家（伊藤・関戸・内田の豪商）の基礎固まる
1688	元禄1	
1700	13	

※ 尾張は西に対する重要な拠点として、分割をさけ一国一藩とし、御三家筆頭尾張藩による支配が行われたのに対し、三河は譜代の大名領・幕府の直轄地・旗本領に細かく分けられた。三河は徳川氏の出身地であり、広い意味での幕府領ということが出来る。三河に配置された小大名は幕府の官僚であり、老中や寺社奉行など幕政の要職についたものも多い

幕府代官、大浜・鷺塚・平坂・犬飼・御馬を三河五箇所湊と定める

新城水野氏転封し、新城藩消滅

このころより商人や有力農民による干拓新田が伊勢湾や三河湾でさかんに開かれる
稲生平七、新田を開発する—平七新田（碧南）

江戸の商人伏見屋又兵衛、新田を開発する—伏見屋新田（碧南）

渥美郡野田村と赤羽根村との山論が激化する
延宝年間、設楽郡50数か村が、江戸表に越訴

大浜茶屋（安城）の庄屋が助郷役免除を訴え、刑死（その後、大浜茶屋の加助郷は取り消された。村人たちは、永安寺を建てて冥福を祈った）

渥美郡中山に越訴事件がおきる。庄屋2人斬罪（のち、農民は地主神として2人の霊を祀り、毎年6月28日に、村中仕事を休み、虫祭と称して大施餓鬼を行うことになったという）

富好新田（吉良）が開かれる

1701	14	名古屋城下に大火。町屋1649, 小借屋1万8983, 寺社15が焼失する	幕命により三河国郷帳をつくる。高38万3000石
1702	15		吉良上野介義央, 赤穂浪士に討たれる
1717	享保2		岡崎藩主水野忠之, 老中となり享保の改革に参画する
1727	12	一宮に三八市が開かれる。以後各地に市が立つ	
1728	13	儒学者細井平洲, 平島村(東海市)に生まれる	
1731	16	藩主徳川宗春, 享保の改革を批判する	
1738	元文3	宗春, 元文4年將軍より隠居謹慎を命じられる	刈谷農民, 新規総検見に反抗して一揆をおこす
1748	寛延1	巾下学問所ができる	大岡忠相, 1万石を西大平藩で加増される
1752	宝暦2	松平君山ら, 「張州府志」を完成させる	吉田藩校, 時習館ができる。拳母藩領,
1755	5	薩摩義士によって木曾三川分流工事が完成する(犠牲者85名, 工事費40万両)	飯野・舞木・四郷村に一揆がおこる
1783	天明3	尾張藩校明倫堂が細井平洲の努力によってできる	○このころ, 西三河の綿織物が最盛期をむかえ, 矢作・西尾・岡崎などの問屋を通じて江戸へ送られる。
1785	5		田原藩, さつまいもを植えることを奨励する
1789	寛政1	○このころ, 尾北地方で養蚕がさかんとなる	刈谷藩主松平乗完, 老中となり寛政の改革に参画する。吉田藩主松平信明, 天明8年より老中となる
1801	享和1	藩営熱田前新田が完成する	刈谷藩領泉田村に一揆がおこる
1807	文化4	瀬戸の陶工加藤民吉, 磁器焼技術習得のため九州へおもむき, 瀬戸焼発展のもとを築く	田原藩校, 成章館ができる
1810	7		
1816	13	○このころ(文政年間), 尾西や知多で綿織物がさかんとなる	信州中馬と三州馬塚ぎとの間で紛争がおこる
1821	文政4		吉田藩営富久縞新田(渥美郡)ができる
1822	5	樋口好古, 「尾張徇行記」を完成させる	
1823	6	○このころ, 藍の栽培が始まる	渡辺政香, 寺津(西尾)に, 八幡書庫をつくる
1827	10		碧海郡和泉村(安城)の都築弥厚, 矢作川
1828	11	伊藤圭介, 長崎でシーボルトに学ぶ(名古屋出身, 植物学者, わが国最初の理学博士)	を分水して加茂・碧海郡を開拓する計画を幕府に出願する
1833	天保4	梶常吉, 七宝焼を始める	二川宿・白須賀宿助郷村58か村の休役嘆願一揆おこる。田原藩, 藩士の俸禄を豊凶に応じて増減させる
1834	5		田原藩, 渡辺華山の推せんで農学者大蔵永常を招いて興産方(藩産物取立役)とする
1836	7	○このころ, 犬山城主成瀬氏, 犬山藩独立の運動をさかんに行う	加茂郡一帯に大一揆がおこる一鴨の騒立
1839	10		渡辺華山, 「憤機論」を著す。この年蚕社の獄がおこり捕らえられる
1842	13	尾張藩, 株仲間を解散させ, 国産会所を設けて領内の商品統制をし, 利益の吸収をはかる	渡辺政香, 「参河志」をほぼ完成(1836)

明治	1844	弘化1	「尾張名所図会」が刊行される	
	1845	2		
	1846	3	内海（知多郡）地方にみかんづくりが始まる	加茂郡 21 か村の馬塚ぎと足助町問屋が争う（足助町は尾張・三河と信濃を結ぶ交通の要地で、宿場町・商業中継地として栄えた。馬で荷を運ぶ三河の運送業者を三州馬塚ぎ、信濃の業者を信州中馬といった。信州へはおもに塩が運ばれた）
	1847	4	常滑の土管づくりが始まる	
	1849	嘉永2	徳川慶勝、藩主となり寛政復古改革を行う	
	1851	4	名古屋の株仲間、ほぼ再興される	
	1853	6	調達金のあっせんを町人 300 人に懇願する	北設楽郡の古橋氏が植林をすすめる
	1855	安政2	暴風雨により、伊勢湾干拓地の堤防 91 か所が破壊される	田原藩、海岸防備策として天保 8 年、領内の各所に遠見台や砲台を設ける。安政 4 年には、洋式帆船を建造する（長州について 2 番目）
	1860	万延1	加藤高明、尾張藩佐屋代官所手代屋敷で生まれる	岡崎城主本多忠民、老中となる
	1861	文久1	○このころ、弥富の金魚の飼育が始まる	
	1864	元治1	慶勝、長州征伐の総督に任じられる	一色大堤燈（幡豆郡一色町）ができる（現存では最古）
	1866	慶応2		碧海郡神楽山で一揆がおこり、幕府役人らの見分一行を襲撃する
	1867	3	東海各地にお札降り騒ぎがおこる	
	1868	明治1	入鹿池の堤防が決壊する。死者 941 人 尾張藩、佐幕派 14 名を処刑する（青松葉事件）	尾張藩より三河諸藩へ勤王をすすめる
	1869	2	犬山の成瀬氏、犬山藩として独立する 尾張藩を名古屋藩と改める。稲沢・一宮・津島・尾西 133 か村に一揆がおこる（稲葉騒動）	* 岡崎県・西尾県・豊橋県・刈谷県・挙母県・田原県・西端県・西大平県・半原県・重原県
	1870	3		新城中心に 70 余か村に一揆おこる（蓑着騒動）
	1871	4	廃藩置県により、名古屋藩は名古屋県、犬山藩は犬山県となる。11 月、犬山県を名古屋県に合併 熱田に郵便役所ができる	各藩それぞれ県を称する * 11 月、三河 10 県と旧幕府の直轄地を統合して額田県とする 碧海郡大浜村に神仏分離反対一揆おこる（大浜騒動）
	1872	5	名古屋県を愛知県と改める。ついで額田県を統合して現在の愛知県となる。名古屋電信局ができる	
	1873	6	名古屋城内に名古屋鎮台が置かれる。愛知県最初の日刊紙「愛知新聞」が発刊される 愛知県養成学校ができる（1876 年、愛知師範学校となる）	
	1874	7	第 1 回愛知県産物博覧会が開かれる。愛知県庁を名古屋東本願寺別院へ移す	
	1875	8	愛知裁判所ができる。地租改正が始まる	
	1876	9	地租改正反対の伊勢暴動が海部郡に波及。東春日井郡を中心に 43 か村に地租改正反対一揆がおこる	
	1877	10	愛知中学校ができる。北海道移民が行われる。（144 名）久屋町に県庁を移す。臥雲辰致の発明したガラ紡機が三河で使用される（三河ガラ紡の始まり）	
1878	11	士族授産の愛知物産組が創業、絹綿交織物・木綿織物を製造する		
1879	12	初の県議会議員選挙が行われる。東三河の良家の子女 13 人を上州富岡製糸場に伝習生として派遣		

大正	1880	13	官営工場，愛知紡績所が額田郡大平村（岡崎）にできる。明治用水ができる
	1881	14	県下最初の銀行として名古屋に伊藤銀行，一宮に一宮銀行ができる。自由党愛知県支部できる
	1884	17	自由党過激派による警察官殺害事件などがおこる（名古屋事件） 長野県飯田と県内の民権グループの連合による暴動計画が発覚する（飯田事件）
	1885	18	県下最初の民営工場，名古屋紡績所ができる。1887年には，尾張紡績会社が設立され，愛知県における近代紡績の基礎が固まる
	1886	19	武豊線が開通する。笹島駅（名古屋駅）ができる。東海道線，笹島一宮間が開通する
	1887	20	東海道線，名古屋一岐阜間が開通する。鈴木政吉がバイオリンの製造に着手する
	1888	21	名古屋鎮台を廃止し，第3師団を置く
	1889	22	名古屋市制施行。町村合併が行われる。名古屋に初めて電燈がつく（全国で5番目）
	1890	23	名古屋測候所ができる。豊田佐吉が豊田式木製人力織機を完成する
	1891	24	濃尾大震災がおこる（全国の被害，死者7469人・全壊家屋8万5848戸，震源地揖斐川上流）
	1894	27	神野新田（豊橋）が完成する
	1895	28	関西本線，名古屋一弥富間が開通する。翌年には名古屋一大阪間が開通する
	1900	33	中央本線，名古屋一多治見間，尾西鉄道，弥富一宮間，豊川鉄道，豊橋一長篠間が開通する
	1901	34	県庁が武平町へ移る。岡崎に第2師範学校ができる 名古屋に公立医学校ができる。安城に安城農林学校ができる
	1904	37	津島方面の毛織物業の基礎が固まる。豊橋方面の蚕糸業生産のびる
	1906	39	豊橋市制施行。「名古屋新聞」が発刊される。再び大規模な町村合併が行われる
	1907	40	名古屋にガス燈がつく。熱田港を名古屋港と改称する。名古屋港，第1期工事が完成し，開港場となる 瀬戸電気鉄道，瀬戸一堀川間が開通する
	1908	41	名古屋電気鉄道市内電車，熱田と結ばれる。豊橋に第15師団を置く。第八高等学校できる
	1912	大正 1	木曾川改修工事，現在の河道となる。知多電鉄，熱田一大野間，名古屋電鉄，一宮一犬山間開通
	1914	3	名古屋に上水道が完成し，給水を始める。市内電車値上げ反対の電車焼打事件がおこる
	1916	5	岡崎市制施行。初めて労働組合が設立される（以後労働争議が年ごとにふえる）
	1917	6	鳴海に小作争議がおこる（以後各地で小作争議がおこる）
	1918	7	米騒動が名古屋をはじめ，豊橋・一宮・鳴海・刈谷・横須賀などへ波及する
	1920	9	名古屋電気鉄道市内線を名古屋市が買収し，名古屋市営となる
	1921	10	一宮市制施行。愛知時計で労働争議がおこる。野間に燈台ができる
	1923	大正 12	名古屋で県下最初のメーデーが行われる。銀行の休業・倒産が続出する
	1925	14	名古屋放送局，ラジオ放送を始める。○このころ，弥富の金魚養殖さかんとなる
	1926	昭和 1	豊田自動織機製作所が刈谷にできる。愛知電鉄，名古屋一豊川間，翌年には名古屋一豊橋間が開通
	1929	4	瀬戸市制施行
	1930	5	中川運河ができる。豊田佐吉が死ぬ（1867～）。岐阜一名古屋間に直通電車が走る
	1931	6	名古屋医科大学ができる
	1932	7	わが国初の国産自動車「アツタ号」が完成する

- 1933 8 **名古屋新市庁舎が完成する。**蓬左文庫ができる。豊田自動織機が自動車の商品化に着手する
- 1935 10 東山公園ができる。名岐鉄道、名古屋一岐阜間に電車開通。名岐・愛知電鉄が合併して名古屋鉄道となる
- 1937 12 半田市制施行。トヨタ自動車工場が挙母（のちに豊田市となる）にできる
- 1938 13 **愛知県新庁舎が完成する**
- 1939 14 名古屋帝国大学ができる。豊川に海軍工廠ができる
- 1941 16 名鉄電車新名古屋駅（地下）ができる。名古屋・伊藤・愛知銀行が合併して東海銀行となる
- 1942 17 名古屋市内に初めて空襲がある。「新愛知」「名古屋」両新聞が合併して「中部日本新聞」となる
- 1943 18 春日井・豊川市制施行
- 1944 19 名古屋にB29による本格的空襲が始まる。学童疎開が始まる。小牧飛行場ができる（今の名古屋空港）
東山動物園の猛獣を処置する。南海地震がおきる
- 1945 20 三河地震がおきる。空襲で名古屋城が焼失する。豊橋・一宮・岡崎など、空襲を受ける
- 1947 22 津島市制施行。新学制による小・中学校ができる
- 1948 23 碧南市制施行
- 1949 24 名古屋大学・名古屋工業大学・愛知学芸大学（のちに教育大学）が発足する。中日球場完成（今のナゴヤ球場）
- 1950 25 刈谷市制施行。第5回国民体育大会が愛知県で開かれる
- 1951 26 挙母市制施行（34年豊田市と改称）。CBCが民間放送で初めてラジオ放送を始める
- 1952 27 安城市制施行。名古屋空港が開港される。大須でデモ隊と警官隊が衝突する（大須事件）
- 1953 28 西尾市制施行。台風13号、三河をおそう。伊勢湾工業地帯建設同盟が結成される
- 1954 29 蒲郡・犬山・常滑・江南市制施行。名古屋テレビ塔ができる
- 1955 30 小牧・尾西市制施行。愛知県文化会館（美術館）ができる。碧南干拓地が完成する
- 1956 31 衣浦大橋が完成する。CBCテレビ放送が始まる。佐久間ダムができる
- 1957 32 名古屋に初めて地下鉄が開通する（名古屋一栄町間）
- 1958 33 新城・稲沢市制施行。鍋田干拓工事が完成する
- 1959 34 伊勢湾台風で大きな被害を受ける（死者行方不明者、全国5122人・愛知県3160人）
- 1961 36 **愛知用水工事が完成する**
- 1962 37 名古屋臨海工業地域の造成が進む
- 1963 38 守山市・鳴海町、名古屋市に合併する。名四国道が開通する
- 1964 39 愛知県体育館ができる。伊勢湾防潮堤が完成する。東海製鉄が操業を始める。東海道新幹線が開通
- 1965 40 明治村（犬山）ができる。名神高速道路が開通する
- 1967 42 濃尾用水が完成する
- 1968 43 豊川用水が完成する
- 1969 44 東海市制施行。東名高速道路が開通する
- 1970 45 大府・知多・尾張旭・知立・高浜市制施行
- 1971 46 岩倉市制施行。世界卓球選手権大会が名古屋で開かれる（中国参加）
- 1972 47 豊明市制施行。公立高等学校の学校群制度が発足する。

	1973	48	名古屋市・東海市，国の公害病指定地域に決定する。衣浦トンネルが開通する
	1974	49	名古屋市電，廃止される。愛知子どもの国が開園される。新幹線沿線の住民が新幹線公害の訴訟をおこす
	1977	52	名古屋市博物館が開館される
	1986	61	愛知環状鉄道開業
平成	1989	平成 1	世界デザイン博覧会開催。公立高等学校入試に複合選抜方式が導入される
	1991	3	愛知県図書館が新規開館
	1994	6	第 49 回国民体育大会開催
	1995	7	長良川河口堰の運用開始。名古屋高速道路の都心環状線が開通
	1997	9	2005 年に開かれる万国博覧会の会場が愛知県に決定